



がん相談支援センターだより

第42号

令和7年1月発行



東札幌病院の緩和ケアについて

緩和ケア科部長 町野 孝幸

NST研修を開催しています

栄養課 菊地美優

全身MRI DWIBS検査のご案内

医療安全研修「救急蘇生(演習)」開催

看護部・医療安全管理部門 二井矢ひとみ

健康セミナーを再開いたしました

生理機能検査課について

生理機能検査課係長 狩野可奈

東札幌病院の 緩和ケアについて

緩和ケア科部長 町野 孝幸



緩和ケアとは

緩和ケアは、「生命を脅かされている患者とその家族のQOL向上させる」医療と言えます。

具体的な医療内容としては身体的・心理的、社会的、スピリチュアルな苦痛を的確にアセスメントし予防・改善することです。

例を挙げると、患者さまの痛みに対して医療用麻薬をはじめとする鎮痛剤を用いて疼痛の緩和を図ったり、自力で動けない患者さまの日常生活動作の介助や体力の維持・回復を図ったり、経済的に困っている患者さまとそのご家族が利用できるサービスについて情報提供したりなど、医師・看護師のみならず様々な職種の医療従事者がチームとなって、個別の患者さまやそのご家族のQOLを低下させている医療的な課題に取り組みます。

現在、がん、心疾患、呼吸器疾患、神経疾患、腎不全、感染症など様々な疾患で緩和ケアは必要と考えられています。日本では、死因別に見ると、がんでお亡くなりになる方の割合は30%ほどで、全体で見ると心疾患や脳血管疾患、肺炎などを含む非がんの方の割合が多いのですが、がんは、緩和ケアのモデルとなる疾患であり、モルヒネなどのオピオイドは緩和ケアを象徴する薬剤と言えます。しかし、実際にはオピオイドなどの薬剤だけで苦痛を緩和するのが非常に困難な症状もあり、放射線治療や外科的処置などが有効な手段となる場合も多々あります。

薬剤以外の治療としては、放射線治療を行うことで骨転移

の疼痛やがん性創傷からの出血、運動麻痺の予防などを行ったり、当院で対応困難な泌尿器系の症状や脳転移などの症状に対しては、外部の医療機関に依頼して処置をしていただいたりする場合もあります。

WHOが1990年に最初に公表した緩和ケアの定義は「治療に反応しなくなった患者に対する全体的な医学的ケア」でしたが、2002年にWHOが公表した緩和ケアの定義以降、現在では冒頭に示した通りで、(病気治療の副作用などに対する)支持療法、終末期ケア、死別後の遺族ケアなども緩和ケアに含まれています。

WHOの1990年の定義により、患者さまやご家族、医療従事者の中でも、緩和ケアと言えば終末期のイメージが強いかもしれません。実際には病気が診断された時点から、病気を治すために行われる治療と並行して提供されるケアが緩和ケアであり、これが現在の日本の集学的がん医療と言えます。

当院でも、最近は大学病院の外来を通院しながら、がんの治療を行っている患者さまを当院の緩和ケア内科外来にご紹介いただき、苦痛症状や治療の副作用、薬剤の調整に関して介入させていただいている方も少しづつですが増えてきております。そして、がん治療が終了した後は、当院の外来で緩和ケアを継続しています。

また、患者さまがお亡くなりになった後は、ご遺族の方々同士や、入院中に関わった医療スタッフと触れ合う「茶話会」のご案内をさせていただいており、継続的に茶話会に参加くださっているご遺族もいらっしゃいます。

東札幌病院の緩和ケア病棟の特徴

当院は開院以来、がん治療の専門医療機関からの、がんに対する有効な治療ができなくなったがん患者さまを多くご紹介いただき、診療してきました。

そのような歴史的背景もあり、当院の緩和ケア病棟では主に、様々な理由から自施設でのがんの終末期診療が難しいということで医療機関から患者さまをご紹介いただき緩和ケア診療を行っています。



回診

入院を要しない程度の症状の患者さまの場合は、外来通院で緩和ケアを提供させていただいておりますが、症状が増悪した際に緩和ケア病棟に入院して治療を行い、症状が緩和された場合は、退院して再び外来通院に戻るといった診療も行っています。

また、訪問診療を利用して自宅や施設で療養しているがん患者さまの症状が悪化した際に、緩和ケア病棟に入院していただき、治療によって症状のコントロールが付いた場合は退院して在宅診療に戻られる方もいらっしゃいます。

つきっきりで介護に当たっていて、介護されているご家族が大事な用を足すことができなかつたり疲弊してしまわないように、病状が安定している患者さまでも、一時的に緩和ケア病棟に入院していただけます。

緩和ケア病棟入院中は、薬剤の他に、観血的処置や放射線治療などを用いた身体的苦痛症状の緩和や、札幌医科大学附属病院の協力のもと、非常勤の精神科医師と臨床心理士による不眠やせん妄、抑うつなどの精神症状の緩和に対応しています。

また、食事や排せつ・保清の介助やケア、体調や内服薬の管理、身体能力や嚥下・呼吸機能の維持や向上、リラクゼーションなどを目的としたリハビリテーションを提供しています。医療費など経済的な支援が必要と思われる患者

さまや、退院後の療養生活の工夫が必要と考えられる患者さまには、医療ソーシャルワーカーが介入して利用可能な介護・医療サービスを情報提供させていただいたり、他の関係機関との調整を図ったりしています。

当院ではボランティアの方々によって、毎週金曜日に音楽療法士の伴奏に合わせて歌をうたうディケアや、ヒーリングやお話し相手など個別活動を行ったりしています。COVID19流行期間中は活動を休止しておりましたが、流行前は、院内でコンサートや映画上映会、クリスマス会、ペットセラピーなど様々なイベントが行われておりました。

現在、徐々にですが活動も再開されてきており、一昨年より夏祭り、昨年は映画上映会とコンサートを再開することができました。これから、様々な院内イベントが順次再開されるのではないかと期待しております。

当院の緩和ケア病棟は、COVID19終息後はいち早く面会の規制を解除した機関のひとつで、現在は面会に人数・時間・年齢の制限は設けておりません。可能な範囲で希望時間に来院いただき、大切な人たちとの時間を過ごしていただければと考えております。また、個室であればペットとの面会も可能です。

当院の緩和ケアで大切にしていることは一人ひとりの患者さまに提供する緩和ケアを「個別化（最適化）」することと、患者さまの「人権擁護」です。

そのため、一人ひとりの患者さまの身体症状・心理精神症状に対して適切な治療対応をするだけではなく、患者さまが一市民として安心して入院生活を過ごせるよう、患者さまやご家族と接する態度・姿勢にも配慮し日々の診療に取り組んでおります。



2024年開催の夏祭り

当院の緩和ケアチームについて

緩和ケアチームは、緩和ケア病棟以外の一般病棟や外来の患者さま・ご家族の緩和ケアに当たっています。その中には、がんの化学療法や放射線治療中であるものの、身体的・精神的に辛いという患者さまも含まれます。いわゆる「支持療法」の面でも、緩和ケアチームが患者さまや主治医など治療チームの力になれることがあればいつでも診療に参加します。

緩和ケアチームは、医師・看護師・薬剤師・栄養士・療法士の多職種で構成されており、毎週カンファレンスを行いながら、主治医と共に入院・外来患者さまの苦痛緩和に努めております。



お知らせ

当院では、令和6年6月より病床数を増床して2病棟54床から3病棟84床となり、院内病棟型の緩和ケア病棟としては国内最大級の規模となりました。

先述のように、ご紹介いただいたがん患者さまの転院に時間がかかってしまうことが当院の課題でした。また、近年増加傾向にある、在宅診療の医療機関からも入院依頼が増えてきております。

今回の緩和ケア病床数の増床で、そのような患者さま・ご家族、医療機関の皆さまのニーズにより迅速にお応えすべく病棟・地域連携室・MSWなど病院一丸となって努めて参ります。がん患者さまやそのご家族、がん診療に携わる医療機関の皆さまから、いつ、どのようなタイミングでご相談いただいても、ホスピス運動から始まった緩和ケアの思想は、「人権擁護」であることを忘れず、私たち東札幌病院は最善を尽くして参りたいと考えております。

また、がん治療の進歩とともに緩和ケアも日々進歩しています。

当院が実行委員会を努める「がん緩和ケアに関する国際会議：Sapporo Conference for Palliative and Supportive Care in Cancer (SCPSC)」では、国内外から集まった緩和ケアの専門家たちによって、最新の生物学的・臨床的・社会人文学的・技術的革新について議論が行われます。2026年には第5回が開催されます。非常に興味深いプログラム内容となっておりますので、一人でも多くのがん治療や緩和ケアに携わる方々にご参加いただきたく存じます。

地域医療との関係

前述のように、がんの治療を行っている最中、治療を終えた後、最期を迎えるとしているときなど、がんの全過程を通じて緩和ケアは提供されますが、ケアの提供場所は病院に限りません。

最近は、がんの終末期を自宅で過ごしたい・介護したいという患者さまやご家族のニーズも増えてきています。

皆さまのそのようなご要望にお応えすべく、MSWなどによる訪問診療・訪問看護の調整を行っております。他医療機関から在宅療養を検討している患者さまも、いったん当院へ転院いただきながら訪問診療・訪問看護の調整を行うことも可能です。

▲2026年開催予定の学会のポスター

NST研修を開催しています

栄養課 菊地 美優

当院では栄養サポートチーム(Nutrition Support Team:NST)を設置し、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など多職種が協働して患者さま中心の栄養管理を行い、治療効果の向上を図っています。

また当院は日本栄養治療学会(JSPEN)よりNST教育施設として認定されており、院外のメディカルスタッフを対象に、NST専門療法士臨床実地修練の受け入れを行っております。2024年は10月28日から11月1日の合計40時間にわたりNST専門療法士臨床実地修練を開催し、管理栄養士1名、看護師2名、薬剤師3名の計6名の方にご参加いただきました。

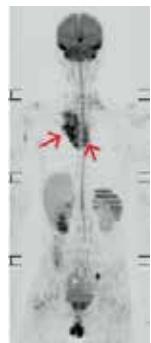
研修を始めるにあたりNST認定医である日下部院長より開催挨拶、続いて大串看護部長より東札幌病院の特徴についてお話をいただき研修開催の運びとなりました。実習の中には、普段あまり目にすることのない胃瘻交換の見学もあり、研修生から「知識としては知っていたが、実際に見学することができとても勉強になった」との声がありました。また、当院の特徴の1つでもある緩和ケアと栄養や周術期の栄養管理など専門性の高い講義を受け、より一層学びが深まった様子でした。実際のNST回診やカンファレンスの見学、各職種から見た栄養に関する講義を行い、研修生から「チームとして多職種の専門性を活かしたカンファレンスが見学できた。自施設での今後の活動に生かしたい」との感想もいただきました。研修中に、実際に研修生一人ひとりが栄養ケアプランを作成する時間を設け、最終日に発表していただきました。どの発表も大変素晴らしい、当院スタッフも新たな気づきを得ることができ、普段の栄養管理を見直す良い機会となりました。

今回の研修が各病院での活発なNST活動の一助となることを期待するとともに、当院スタッフも研修生から得た多くの学びを今後につなげていきたいと考えています。今後も年1回程度の開催を予定しておりますので、NST専門療法士の資格取得を目指す方、栄養に関する知識を深めたい方のご参加をお待ちしております。また当院栄養サポートチームは、今後も患者さまに合った最良の方法で栄養支援を行ってまいります。



▲NST研修のようす

全身MRI DWIBS検査のご案内



がんの検出と評価：DWIBSは、がん細胞の密度が高い場合に有効です。特に頭頸部、肺、肝臓、腎臓などのがんにおいて、背景成分を抑制することによって病変の視覚的な強調が可能になり、病変を高いコントラストで描出できる検査です。スクリーニング検査に適しています。また非侵襲的であり、放射線を使わないため、患者さまへのご負担が少ないこともメリットです。

しかしながら、発見されたものが全てがんとは限らず、細胞密度の高い良性腫瘍等も感知して検出されることがあります。そのため、他の検査結果と総合して判断することや、精密検査や経過観察が必要な場合もあります。

▲DWIBS画像

当院では検査の依頼を受け付けております。詳しくはホームページをご覧ください。 >> <https://www.hsh.or.jp>

❖ お知らせ

医療安全研修 「救急蘇生（演習）」開催

看護部・医療安全管理部門 二井矢 ひとみ



発見者「〇〇さん、わかりますか？」

チューター「反応がありません」

発見者「反応がない。応援を呼ぼう」

（ピンポンヘン）

チューター「どうしました？」

発見者「〇〇さんの意識がありません。救急カートと除細動器とスタッドコールをお願いします。」

このようなシナリオに沿って、今年度の医療安全研修『救急蘇生（演習）』を開催しました。発見者は医師や看護師が担当し、院内で発生した救急蘇生における必要場面を想定しました。事前にe-ラーニングで『救急蘇生の基礎知識』を受講していることを前提にしており、講師である麻酔科医の佐々川飛鳥先生が、除細動器や胸骨圧迫のポイントを説明した後、すぐにシナリオ通りに演習を開始。4～5人で1グループとなり、10グループで実践と見学を交互にすることで、シナリオが4回展開されました。参加者全員が胸骨圧迫を体験できるよう、シナリオ進行役（チューター）が各グループに1人ずつ配置されており、スムーズに胸骨圧迫の交代ができるよう適宜声かけをしていました。事務職員や薬剤師、栄養士も、恐る恐るでしたが胸骨圧迫にチャレンジしました。

参加者からは『実際に練習することでイメージすることができました。除細動器やマスクの当て方、使い方なども教えていただき、とても学びになりました』『実際の場面で役立つ研修でした』『めったにないことだからこそ、いざという時のためのイメージトレーニングができて良かった』という意見が多く寄せられ、満足度が高い様子でした。

あるグループは、シナリオの演習後に参加者の医師が、看護師にバッグバルブマスクの当て方などを直接指導してくれている場面もあり、『医師と同じチームだったことでより詳しく学べてよかったです』と、思いがけない個別指導に喜んでいる看護師もいました。

新型コロナ感染症の流行に伴い、e-ラーニングを活用した講義形式や動画視聴が主体だった医療安全研修ですが、患者さまの急変時に適切に対応できるようにするために、実技による体験演習が必要です。全職員が体験するため、同じ内容を10回開催しました。本当に皆参加してくれるのだろうかと不安になりましたが、結果は参加率87.4%で、かなりの高参加率でした。これからビデオで撮影した研修内容をe-ラーニングにして未受講者に受けてもらい、100%を目指したいと思います。

❖ お知らせ

健康セミナーを 再開いたしました

コロナ禍でやむを得ず中止していた健康セミナーでしたが、今年度より再開をいたしました。当院の医師や看護師、コメディカルが講師となり、医療や健康にまつわる内容をテーマに隔月で開催しております。
どなたでもご自由に参加ができるセミナーとなっておりますので、ぜひご参加ください。



生理機能検査課について

生理機能検査課係長 狩野 可奈



生理機能検査課は超音波検査士1名を含む5名の臨床検査技師が在籍しており、超音波検査をはじめとした各種心電図検査、呼吸機能検査、血管伸展性検査、眼底検査などの各種生理機能検査を行っています。

腹部領域の超音波検査では日本超音波医学会認定専門医・指導医の資格を有する医師も検査を行っております。

■超音波検査

エコー検査とも呼ばれる検査で、超音波を利用して様々な部位を画像化して行う検査です。当院では肝臓、胆のう、脾臓、腎臓などの腹部領域、乳腺、甲状腺、リンパ節などの表在領域、循環器領域、頸動脈、腹部動脈等の血管領域など様々な部位の検査を行っており、健診の二次精査や他院からの精査依頼にも対応しています。がん専門病院として、様々な領域のがんの診断や治療効果の判定などの一助としての検査も行っています。

また、乳腺、甲状腺、肝臓などの細胞診・組織診による診断や、甲状腺の経皮的エタノール注入治療(PEIT)などを安全に行うためのエコーガイドも行っています。

検査は予約制ですが、緊急性のある場合には即日対応も可能です。

■心電図検査

心臓から流れる微弱な電流を波形にして、不整脈や心筋梗塞・狭心症などの心疾患の有無を検査します。一般的な標準12誘導心電図をはじめとする各種心電図や、24時間心電図記録を行うホルター心電図を行っています。

当院では開院当初からの理念である「医療の本質はやさしさにある」を念頭に、患者さまに寄り添った検査を心がけています。
また感染対策や安全対策にも取り組み、必要時には専門スタッフのアドバイスを受け、より安全な検査を行うよう努めています。

■呼吸機能検査

肺活量の測定を行う検査で、当院では肺活量、努力性肺活量の検査を行っており、術前検査として行うこともあります。使い捨てのマウスピースに加えウイルスを99.99%カットする高性能のフィルターを併用し感染対策に努めています。

■血管伸展性検査

両上肢と両下肢の血圧と脈波を測定して血管の硬さや閉塞の程度、血管年齢を測定する検査です。両手足に血圧のカフを巻き、胸部に心音マイクを付けて検査します。痛みはありませんが、強めに締め付けられますので下肢静脈瘤や解離性大動脈瘤のある方、腋窩リンパ節郭清を行っている方、シャントのある方などは検査ができないこともあります。

■眼底検査

眼球の奥にある網膜や視神経、血管などの状態を観察する検査です。当院では無散瞳で行っています。

〈使用装置〉

- 超音波診断装置
Canon Aplio i800——1台
Aplio i800 Prism Edision 2台
Viamo——1台
(ほか院内各所にポーダブル機4台)
- 心電計
フクダ電子 Cardio Star FCP-7541——1台
Cardi Max FCP-8221——1台
- ホルター記録器
スズケン cardy 303 pico+——4台
- スピロメーター
フクダ電子 Spiro Sift SP-370COPD——1台
- 血圧脈波検査装置
フクダ電子 VaSera VS-3000——1台
- 眼底カメラ
TOPCON TRC-NW400——1台

■検査実績 2023年

検査名	件数	検査名	件数
腹部エコー検査	1,609件	心電図検査	5,839件
乳腺エコー検査	1,399件	ホルター心電図検査	92件
甲状腺エコー検査	1,226件	マスター運動負荷心電図検査	0件
血管エコー検査	79件	呼吸機能検査	51件
他、表在エコー検査	104件	血管伸展性検査	156件
心エコー検査	663件	眼底検査	92件
エコーガイド下穿刺検査	787件		





患者さまのご紹介

受診・検査・入院予約について

当院では、他医療機関からのご紹介による患者受診受付を、がん相談支援センター地域連携室で承っております。

直通ダイヤル

TEL 011-817-5120 FAX 011-817-5130

予約・予約変更の電話受付時間 月曜～金曜9:00～17:00／土曜9:00～12:00

ご紹介の流れ

一般外来受診希望者のご紹介

セカンドオピニオン外来、
病をよく識る外来(病理相談)を除く

1 ご紹介元医療機関が電話またはFAXを送信

〔診療予約(一般外来)申込票Word〕、診療情報提供書(処方内容含む)にて予約日時、患者受診科を決定します

2 東札幌病院地域連携室がご紹介元医療機関にFAX

〔東札幌病院受診予約票〕

3 ご紹介元医療機関が患者さまへ予約票をお渡し

〔予約票〕

4 ご紹介元医療機関からの診療情報提供書、画像など

〔本人持参または地域連携室へ事前に郵送〕

5 患者さまが予約日時に外来受診

〔保険証〕、〔診療情報管理提供書〕、〔予約票〕などを持参

緩和ケア目的での入院、外来通院希望者のご紹介

1 ご紹介元医療機関が電話にてご連絡

〔電話にて相談〕

2 ご紹介元医療機関が当院へFAX送信

〔診療情報提供書のコピー〕、〔患者情報用紙または看護添書のコピー〕、〔保険証のコピー〕

3 東札幌病院地域連携室が受診日、転院日を調整

〔東札幌病院受診予約票〕

4 ご紹介元医療機関からの診療情報提供書、画像など

〔本人持参または地域連携室へ事前に郵送〕

5 患者さまが予約日時に外来受診・転院

〔診療情報提供書(処方内容含む)〕、〔患者情報用紙または看護添書〕、〔検査画像(直近のもの)〕、〔採血データ〕、〔保険証〕

※診療予約(一般外来)申込票、外来問診票、外科(肛門科)問診票、外科(乳腺)問診票、
外来(歯科・歯科口腔外)問診票は、当院ホームページよりダウンロードできます。

〔各種申込票・予約票・問診票ダウンロード〕

<https://www.hsh.or.jp/medical-personnel>

※外来問診票は、「患者の受診のみ」もしくは「患者と家族が受診」する場合は患者用の外来問診票を、「家族のみ受診」する場合は家族用の外来問診票をご持参ください。※入院・転院患者情報用紙、外来問診票(患者用・家族用)は当院ホームページでダウンロードできます。

<https://www.hsh.or.jp/medical-personnel>

※保険診療となります。診断群分類別包括制度(DPC)の場合など、医事課あての連絡文書をお願いします。

関連施設のご紹介

厚別老人保健施設 ディ・グリューネン
〒004-0007 札幌市厚別区厚別町下野幌38番18
TEL 011-898-5580 FAX 011-898-6760

訪問看護ステーション 東札幌
〒003-8585 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35
TEL 011-812-2600 FAX 011-812-2605

訪問看護ステーション みづほ
〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条1丁目12番28号
長谷川第2ビル 2階
TEL 011-807-5855 FAX 011-807-5157

指定居宅介護支援事業所 東札幌
〒003-8585 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35
TEL 011-812-2500 FAX 011-812-2533

指定居宅介護支援事業所
ディ・グリューネン
〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条1丁目
12番28号 長谷川第2ビル 2階
TEL 011-807-5156 FAX 011-807-5157

札幌市白石区
第2地域包括支援センター
〒003-0003 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番25
(株)シグマビル 5階
TEL 011-837-6800 FAX 011-837-6800

介護予防センターもみじ台
〒004-0007 札幌市厚別区厚別町下野幌38番18
TEL 011-898-8660 FAX 011-898-6760

医療法人東札幌病院

〒003-8585 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35
TEL 011-812-2311 FAX 011-823-9552

<https://www.hsh.or.jp>

がん相談支援センター
発行 TEL 011-817-5120(直通)
FAX 011-817-5130

発行責任者:医療法人東札幌病院 がん相談支援センター
編集責任者:病院長 曰下部俊朗

